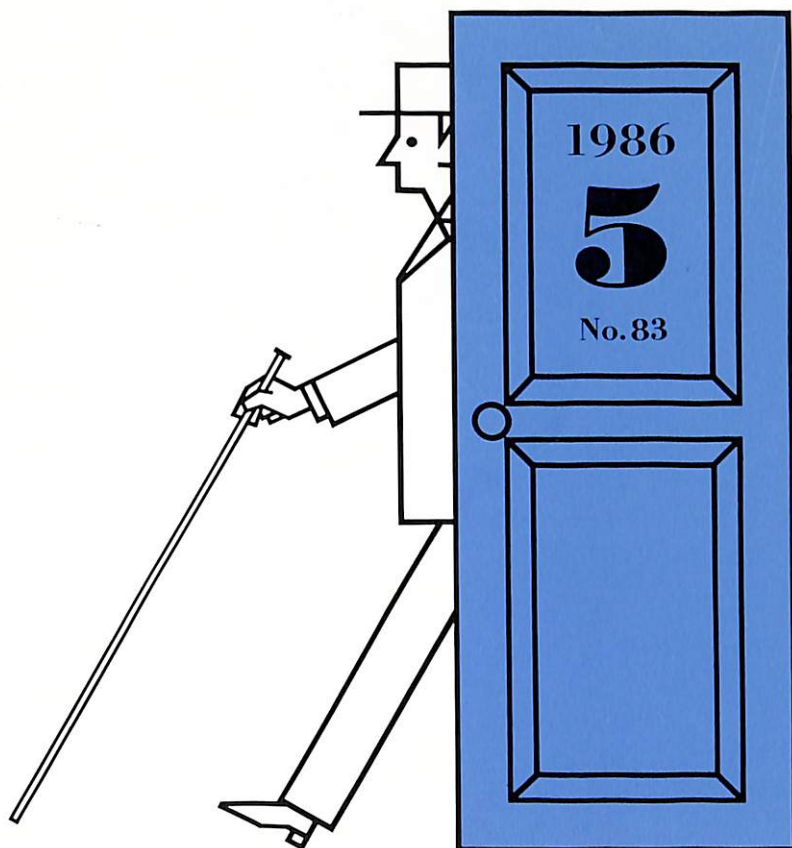


視	覚
障	害

その研究と情報

特集＊これからの盲学校



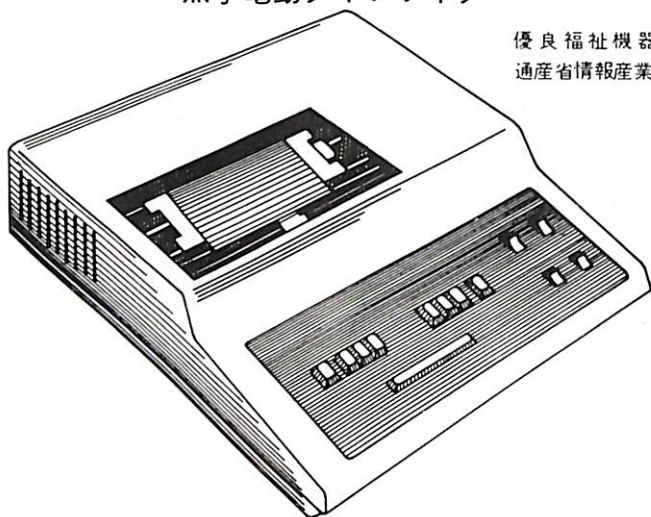
ISSN 0385-7476

SSK

Braille Data Terminal

ESA 731

点字電動タイプライタ



優良福祉機器表彰制度
通産省情報産業局長賞受賞

ESA731はコンピュータをはじめとする
情報機器との接続が可能な電動タイプライタです
使い方いろいろ。点字情報の
未来を拓くためのお役に立ちます。

特 徴

- 簡単な操作
パーキンスタイプライタと同じキー配置
- 利用範囲を大きく広げる点字プリント機能
毎秒10文字のハイスピード印字
- 良質な印字
110kgの用紙までプリント可能
- 改ページ機能
連続用紙の採用により自動的にページ変えが可能

主な適用分野

- カナタイプ→点字タイプ思いのまま
自動点訳、自動代筆、録音タイプ
- 点字版ワードプロセッサ
小部数の複製が手軽にとれます。
- コンピュータ端末装置
マイコン、ミニコン、大型コンピュータの
いづれにも接続してコンピュータの情報を
点字で入手できます。

(株)白雷商会

福祉機器事業部

〒174 東京都板橋区前野町3-48-2 電話03(969)8266(代表)

目 次

1986年 5月 No.83

2 ページ評論	鈴木 栄助	2
---------	-------	---

特集 これからの盲学校

統合教育への積極的な取り組みを	高橋 秀治	5
伝統に甘んじることなかれ	楠 敏雄	10
1 ブロックに1枚、理療短大を	斉藤 績	14
理療科の将来像に関する一私見	竹村 実	18
視覚障害児教育の適性に応じて	永井 昌彦	22
視覚障害児教育のセンター的存在として	西岡 恒也	26

この人と語る

盲学校教員養成の現状とこれからの盲児教育

西條 一止・五十嵐信敬	31
-------------	----

ボランティア西・東

灘神戸生活協同組合とともしびグループ・ブレイユ	46
-------------------------	----

インフォメーション・コーナー	50
----------------	----

編集後記	63
------	----



盲学校よ、再生を教育方法論の 確立に賭けよ

元山形県立山形盲学校長・鈴木 栄 助
山形大学教育学部講師

1. なぜ、今、教育方法論なのか

1960年、日本眼科学会が医学的弱視に関する宿題研究の報告を行い、盲学校が弱視教育の方向と内容について、眼科学会の指導を受けた頃から、伝統的な盲学校の教育方法論に窮りが見えだした。

弱視教育は、盲教育とは異質の教育である。視覚は大いに活用すべしという発想である。点字の視読を黙認していた盲学校は、墨字教育へと傾斜を速めた。医学（機能）弱視より視覚的障害のきつい器質弱視の本質を弁えずに墨字に切替えたことは、盲弱学級の分離に進展した。それまで、盲弱共通のみえの弱さを触覚で補完し、強化していた伝統的教育方法が、急激に崩れ始めた。定数法による教員増と安直な人事交流とがこれに拍車をかけて、全盲にさえ口述中心の教育方法が罷り通るようになった。安易な盲学校の姿勢に対岸の統合思潮とが短絡的に統合して、盲学校の遊休スペースは広がるばかりである。児童・生徒激減の遠因は教育方法論不在にある。

2. of the Blind、視覚障害固有の教育を

外国では、School for the Blindといいますが、学校教育法第71条を仔細に読むと、その前段「盲者に対して準ずる教育」は for the Blind、後段「あわせて必要な知識技能を授ける」は、of the Blind のように思えてならない。障害克服の知識技能は授けられるものでなくて、自ら学びとるものである。とすれば、「あわせて」以下には、視覚障害に固有な、ほんものの知識獲得の方法や、技能習得の手法の確立が前提条件として伏在しているといえそうである。知識とは、盲人の知の媒体である点字オンリーでなくて、点字発明の背景となった触覚理論であり、技能とは、身体の移動、生活技術や職業能力に止まらず、それらを総合的に使いこなして生活環境に対応する身体図式を確立することである。of は property（固有性）の意である。みえない者の本質的属性に基く教育方法論を確立してこそ、盲学校の存在価値が高まるのである。

3. 視覚障害教育を貫く触知覚的教育方法論の確立

精神薄弱教育の父といわれるエドワード・セガンは、1866年原典ともいわ

れる「白痴・および生理学的方法によるその治療」を著した。その精薄児の発達保障論が、マサチューセッツ州知事によって退けられた日から巨大コロニーが生まれ、その反動として対岸の統合論は起った。視覚障害教育もセガン流に上位科学や近接科学に学びながら、発達の筋道を把握し、教育の方法論を追求しなければなるまい。人間は考える葦である前に感覚する存在である。視覚を失ったら、生理学でいう特殊感覚（視覚嗅味平衡）器から得た刺激を大脳神経を経て視覚野で感覚し、側頭葉の記憶の仕組みを足場にして情報処理し視認識する方法はとれない。従って、体性感覚（触圧痛温冷運動）器から摂取した刺激を四肢へと広がる脊髄神経を経て体性感覚野で感覚し、記憶の仕組みによって触知覚する方法に知の組み替えを図らなければならない。体性感覚は触覚を含む皮膚感覚と、筋肉感覚を含む運動感覚とから成り立っており、視覚と匹敵する総合的な知覚作用をもちうるといわれている。人類学で「くらやみの眼」といわれてきた指は、赤外線サーモグラフィによると指先ほど体表温が高い。それは神経が張りめぐされ血流量が多い証左であり、知覚機能の優れていることを物語っている。大脳への伝達系統から、視覚は求心的であり、触覚は遠心的であるにすぎない。盲重複教育を異次元の教育と唱える向きもあるが、ベースは触知覚であり、パソコンの入力も体性感覚である。触知覚理論は盲教育を貫く方法論であり、盲学校再生の鍵である。

4. 小集団学級に塾風教育の^{いろど}彩りを

小集団には、鶏社会にみられる「ついでばみの序列（pecking order）」の力学が巢くいがちである。力のあるものが餌場をひとりじめにして、弱いものがおぼれを拾う図である。学力の序列化で学習意欲を損う力学が小集団に目立つ。日本に根づいた塾風教育は、十人十色、才を驕らず、能力にいじけず、能力のありったけを燃焼させることに意を注いだ。聡い子も鈍い子も、個に徹した師匠の人格を敬慕して、学徳を磨きあいこそすれ、人間性を軋ませあうことを慎んだ。風雲を望む人材は、この土壌から輩出した。盲学校という小集団学級に打てば響く塾風教育の復活を期待する。

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みにになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

点字機械は小林鉄工所にお任せください

電動式点字製版機 その他
電動式点字印刷機 作図器・点消器
点字タイプライター 書見台・紙折機械

株式会社 小林鉄工所

〒601 京都市南区吉祥院井ノ口町45
TEL (075) 691-7270・671-0476

視 覚 障 害 1986年 5 月 No.83
年間購読料 3,000 円 (送料とも)
発行日 1986年 5 月 1 日
編集人 (連絡先)

日 本 盲 人 福 祉 研 究 会

〒160 東京都新宿区高田馬場1丁目
日本点字図書館内 23番4号
電話 (03) 200-1130

振替口座 東京 6-16103

発行人 身体障害者団体定期刊行物協会

〒157 東京世田谷区砧6-26-21

印刷所 合同印刷株式会社

〒130 東京都墨田区業平2-9-13
電 話 (624) 6111 (代表)

協賛団体 日本点字図書館